

2020年7月31日

「2020年度 東京ガスグループ総合防災訓練」の実施について

東京ガス株式会社
広 報 部

東京ガス株式会社（社長：内田 高史、以下「東京ガス」）は、本日、首都圏で大規模な風水害が発生したことを想定した総合防災訓練を行いました。

総合防災訓練は、東京ガスグループの従業員と組織の危機対応力の向上を図ることを目的に、1983年から毎年実施しており、今年度の総合防災訓練には、東京ガス、子会社、協力企業を含む東京ガスグループの従業員、約2万2千人が参加しました。

今年度は、台風による河川氾濫等の風水害を想定し、新型コロナウイルス感染防止と災害対応を両立させる形で初動対応の確認を行いました。また、当訓練は、「台風通過前」と「台風通過中・通過後」に分けて実施し、事前にシナリオを用意しない“ブラインド型訓練”^{※1}とすることで、災害対応力やレジリエンスをより一層高めることを目指しました。

東京ガスは、今後も地震・風水害等への災害対策を進め、災害に強く安全なエネルギー供給の実現に取り組んでまいります。

<主な訓練内容>

- ・訓練当日までに、訓練事務局が各業務部門の想定する対応策等について災害時の想像力と対応力をより高めるためのスパーリング^{※2}を実施。
- ・新型コロナウイルス感染防止と災害対応を両立するため、非常事態対策本部の会議出席者の3密回避を考慮した座席配置やテレビ会議システムを活用した会議運営を実施。
- ・「台風通過前」の訓練では、超大型で猛烈な台風が首都圏に接近するとの想定のもと、雨量予測等の情報に基づく警戒体制の設置や要員の確保、台風通過に備えた各業務の優先順位付けやお客さま等への広報対応を確認。
- ・「台風通過中・通過後」の訓練では、ガス供給区域内で河川氾濫が発生した状況において、安全確保のための措置や復旧計画の検討、お客さま等への広報対応を確認。また、当社ビルの浸水やシステム障害等、様々な被害事象への対応についても確認。

※1 事前にシナリオを用意せずに、当日知らされる被災状況に対して、非常事態対策本部の各班が要領等に基づき対応する訓練。

※2 予め提供する想定情報に基づき各業務部門が対応方針等を検討・整理。訓練事務局がその対応方針等を確認し、質問や確認を重ねることでより具体的な災害時の想像力や対応力を高めるもの。

<非常事態対策本部長（社長：内田高史）による訓練総括要旨>

近年、台風や豪雨による災害が多発していることを踏まえ、今回初めて「風水害」を想定した訓練を実施した。地震災害と異なり風水害は、ある程度事前に予測できるため、何をどのように準備し対応していくのか、今回の訓練をしっかりと振り返り、当社グループの取り組みを再点検、強化していく機会にしていきたい。

この夏にも当社グループが風水害に見舞われることも考えられ、コロナ禍という状況の中で、グループの全従業員が想像力を最大限働かせながら、万全な準備を整えていきたい。

<総合防災訓練の様子>



非常事態対策本部会議で指揮をとる非常事態対策本部長（社長：内田高史）